

資料-6-2 木曾川水系の大規模事業 (新丸山ダム)

【参考】 新丸山ダムにおける費用対効果

費用対効果

事業に要する総費用※は約1,713億円であり、事業の実施により想定される効果を金銭評価した額※は約22,633億円となる。これを基に算出される費用対効果(B/C)は13.2となる。

ダム事業に要する総費用（治水分）※	約 1,713億円
＝建設費＋維持管理費－残存価値	
建設費	1,603億円
維持管理費	131億円
残存価値	21億円
事業の実施により想定される効果（総便益）※	約 22,633億円

$$\begin{aligned}
 B/C &= \frac{\text{事業の実施による想定される効果（総便益）}}{\text{ダム事業に要する総費用（治水分）}} \\
 &= \frac{22,633\text{億円}}{1,713\text{億円}} \approx 13.2
 \end{aligned}$$

※：治水分には「流水の正常な機能の維持」が含まれている。
割引率により現在価値化した額。
事業完成年度 H28年度

本資料は平成15年度事業評価監視委員会資料を基に作成しており、工事実施基本計画に対する費用対効果である。